

人と人
つながりの物語

illustration: Maiko Dake

コープデリグループの組合員数は約520万人。組合員の皆さんの数だけ、物語がある。その物語を毎月一つお届けしていきます。描いているのは皆さんのくらしとコープデリの接点。あなたの物語はどんな物語ですか。

千葉県在住で90歳の女性からコープへの手紙。その一部を紹介する。

「家の周りの雑草に毎日悩まがらなすすべもなく日々を送っておりましたが、今回コープさんに助けられ、明るい笑顔に救われました。駐車場の草刈りをしてくださいました。思い出すと心が明るくなります。ありがとうございます。」

1977年からコープの宅配を利用し、初めてコープの「おたがいさま」を利用した後の感謝の便りだった。「おたがいさま」とは、「くらしのたすけあいの会」の千葉県での呼称。くらしの中で誰かの手を借りたと思った「利用者」と、有償ボランティアの「応援者」（組合員同士）による助け合いだ。女性宅へ行ったのが、同じ県内に暮らす幸子さんだ。

「この方はニコニコと『こんなに早く来てくださったの？』っておっしゃっていました。コーディネーターさんと2人で行ったんですけど、『いろんなことをお2人にお願したいわ』って」と幸子さんは話す。

幸子さんが初めてコープのお店に行ったのはおよそ30年前。当時はメダルがないとお店に入らず、自分のメダルを作ったもらったときはうれしかった。

「夫と子ども3人の5人家族で、当時『おかえりなさい』って子

どもたちに言いたくて、家での仕事を選んだんです」

家で23年間、受注のエプロン作りを中心に縫製の仕事をした。並行して「おたがいさま」の応援者として活動も始めた。

「一番最初は子育て支援。コープの試食会に来た組合員の皆さんのお子さんを見るんです。コープの職員さんがやさしく教えてくださったから対応できました」

幸子さんはその後も、食事づくりの手伝い、家の中のそうじ、音楽会や博物館・美術館などへ出かけた人との同伴、洋服のお直しなどの依頼にも応えてきた。

.....§.....

「おたがいさま」は私にとって社交の場でもあるんです。ある足が不自由な方のお宅へ行くときには、うちにある花をちよつと摘んでいつて生けるんです。利用者さんがそれを『何のお花？』って話が広がって。家族みんなで撮った写真をくくださったりして。おそうじなのか、おしゃべりとお茶のかつていう感じなんです。皆さん本当にニコニコして話してくださるので、それが一番うれしいですよ」と幸子さんは楽しそうに話す。作業が終わると達成感に満たされ、またお願してもええとうれしい。「この達成感を与えてくれる、『おたがいさま』

が大好き！ っていうと思います」

一緒に活動してきた仲間も、コーディネーターさんとももう友達だ。

「人のために役に立ちたい。皆さんそういう気持ちってありますよね。老いていく父母を見て、年を取って困ることがあるだろうなと思った。困っている人を放っておきたくないんです。話を聞いて助けてあげたい。これまでたくさんの方に出会えて、本当に人と人の出会いっていいなって思います。誰かのための活動ではなく、『おたがいさま』は自分のための活動だと思います」

幸子さんはやさしい笑顔で「身内じゃないからこそ頼めることがあるんです。だからいつかきっと、自分も『おたがいさま』を頼むと思います」と語った。

誰かを助けることが自分も救ってくれる。幸子さんの生き方がそれを教えてくれる。

※1・2……くらしのたすけあいの会の呼称は地域、生協によって異なります。また、コーディネーターは、利用する方と応援・援助活動をする方をつなげます（二者をつなげる役割の組合員です）

※3……当時、幸子さんが住んでいた地域ではメダルが組合員証でした

過去の物語も
こちらから読めます



あなたのエピソードを
お寄せください。

コープ職員との心に残る出来事を随時募集しています。氏名・電話番号・組合員コードを記入し、郵便（〒336-8526 埼玉県さいたま市南区根岸1-4-13 コープデリ連合会 コミュニケーション推進部宛）か、左記のWeb応募フォームよりお送りください。